

注目されるeポートフォリオ -教育の質保証と学習の振り返り-

近年、eポートフォリオが多くの大学等の機関で活用されるようになってきました。その背景としては、(1)教育の質保証とその向上が求められていること、(2)学習観・教育観のパラダイム変換の2点が関連しています^[1]。質保証において必要となる学習成果に基づくエビデンス（証拠）の提示方法として、また、学習活動の蓄積・振り返り・評価・公開をするための手段として、eポートフォリオが注目されています。eポートフォリオ(Electronic Portfolio)は、「電子化された」ポートフォリオのことです。

教育におけるポートフォリオにはさまざまな形態がありますが、ここでは、学生が学習のために用いるラーニングポートフォリオ（以降ポートフォリオ）について紹介します。ポートフォリオは、ある目的のもと、学習者が学習成果物などを組織化してまとめたものです。成果物の例としては、ノート、メモ、発表資料、ワークシート、レポートなどが挙げられます。学習者は、収集した成果物を基に自らの学習を振り返ることができます。振り返りや評価をすることにより、自分自身を客観的に捉え、学びが生起されることが期待されます。

ポートフォリオを用いた学習活動のステップとしては、まず学習目標を設定します。設定した目標に沿って、「どのようなことが、どの程度できるか」をルーブリックと呼ばれる表で示します。そして、成果物を収集・蓄積し、評価します。評価には、自己評価だけでなく学生間での相互評価や教員による評価を含みます。その後、学習のエビデンスとなる成果物を精選してまとめたものを公開して、より多くの人に見てもらえるようにすることができます。

eポートフォリオには、次のような利点があります。

- ・情報通信ネットワークを介したアクセスが可能
- ・学内（機関内）だけでなく遠隔地の人々との相互作用が期待できる
- ・画像、音声、動画などマルチメディアの成果物の蓄積が可能
- ・多量のデータの保存が可能、データの再配列・編集・統合・検索が容易

中でもネットワーク経由でアクセスしやすくすることによって、振り返り活動や相互の交流がより促進できることと、それによる学習の効果を期待できることは大きな利点です。また、教員は、テストによる評価だけでなく、学習のプロセスや学習成果によって多面的に評価することができ、学習のエビデンスを確実に提示することが容易であることも利点と言えましょう。

eポートフォリオは、国内外の大学で導入され、活用が進みつつありますが、まずは記録の蓄積からはじめるといったアプローチでは定着が難しいとされます。有効活用するためには、学習者のリフレクション（省察）を促し、学習を生起させるしくみづくりが重要なポイントになります。2月のLTセミナーでは、ポートフォリオの「そもそもの話」からeポートフォリオの本質を捉えた教育的意義についてのお話があります。この機会を是非ご活用ください。

第94回LTセミナー

「eポートフォリオの良さと効果的な活用方法」

- ・講師：東京学芸大学 情報処理センター

森本 康彦 先生

- ・日時：2014年2月18日（火） 15:00～16:30

- ・会場：宇都宮キャンパス 本部棟2号館101教室

※詳しくは、LT開発室Webサイト (<http://www.lt-lab.teikyo-u.ac.jp/activity/seminar/>) をご覧ください。

[1] 教育分野におけるeポートフォリオとは - 森本研究室@東京学芸大学, <http://draco.u-gakugei.ac.jp/eportfolio/>

宇都宮キャンパスの講義ビデオ作成・配信システムをリニューアル！

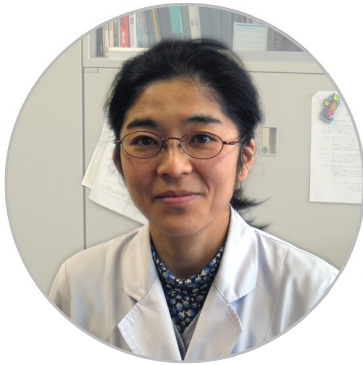
宇都宮キャンパスの講義ビデオ作成・配信システムをリニューアルし、Windowsからだけではなく、Macやスマホ、iPadなどからも視聴できるよう

になりました。ぜひご利用ください。

詳しくはこちら (<http://www.lt-lab.teikyo-u.ac.jp/tools/mediasite/mediasite.html>) をご覧ください。

LMS活用授業レポート

LMSを用いた補講実施の例



今回は、理工学部バイオサイエンス学科の高山優子先生にお話を伺います。

LT LMSを使って補講を実施されたと伺いました。

高山先生 学会のため休講が決まりましたので、あらかじめ準備をしておいて、eラーニング補講という形で実施しました。補講の日を別に設けるとしても例えば土曜日に3コマ連続の授業となると体力的にも厳しいですし、毎年学会がこの時期にあるので、一度コンテンツを作れば手直しして再利用できるかなと思いました。

LT 再利用が簡単にできるのは良いですよね。準備はどのようにされたのでしょうか。

高山先生 まず、補講として成立させるための枠組みを考えて、教科書を読んで質問に答えるミニテストと課題レポートを提出させることにしました。補講準備は、LMSハンドブックを見ながらコンテンツを作成しました。質問の形式をどれにするかで試行錯誤しましたが、それ以外はそんなに難しくなかったですね。私はPCがあまり得意ではないので、LT開発室の方に気軽に相談でき、手伝ってもらえたこともたいへん助かりました。私の研究室のPCで操作を教えていただいたり、設定ミスメールで指摘していただきました。

LT 補講を実施なさっていかがでしたか。

高山先生 ほとんどの学生は問題なく取り組んだようで、課題もちゃんと提出されています。数人が課題の解答時にミスしていました。カンニング防止のため、課題に取り組んでいる時に別のページを見ると強制終了になるように設定していたので、それに

該当したのかもしれませんが、事前に学生には言うておいたのですが、LT開発室にお願いしてもう一度解答できるよう設定し直してもらった学生もいたようです。

LT 今後はどのようなことをお考えでしょうか。

高山先生 1回やってみると工夫したい点が出てきて、また使いたくなりました。今回は自動採点がうまく働かなかったのですが、次回は解答方法を工夫して採点ができるようにしたいです。また、中間試験などの定期試験の一部をLMSでできないかと思っています。紙ベースでは採点にとっても時間がかかるので、自動採点可能ならば、ぜひ活用したいですね。それから、オムニバス授業で研究室の研究内容を紹介することがあるのですが、これをビデオに撮っておいてあとから見られるようにするなど、資料映像として大学院の活性化に使えるといいのではないかと思います。

LT ビデオの収録や公開も簡単にできますので、ぜひお使いいただければと思います。ありがとうございました。

LMS Tips

- ◆ 穴埋め問題で正規表現を使用して解答パターンを設定する
- ◆ ループリック(評価基準表)を課題評価などに活用する

Tipsは帝京大学LMSサポートサイトからご覧いただけます。(<http://www.lt-lab.teikyo-u.ac.jp/lms-ss/>)

編集後記

この冬は雪が降らないと思っていたら、2月の連続大雪! 前回の雪が日陰に残る中で十数cmの積雪に、ビックリするとともに、どこまで積もるのだろうと暖かい家の中からわくわくして外を眺めていました。雪の日の後は雪かきですよ。近所の方の「雪用スコップ」をみて、我が家にもほしいと思いましたが、宇都宮の家庭でも普通に持っているものなのでしょうか? 週末に雪の予報も出てますし、買いに行こうかな… (渡部)

